

令和6年度 学校関係者評価書(様式)

鈴鹿市立神戸小学校				
評価項目	本年度の活動(具体的な手立て)と指標	成果と課題	学校関係者評価	今後の改善点
学力向上×ICT活用	<p>①授業改善・基礎学力の向上 「主体的に学びに向かう子の育成」の視点に立った授業改善。国語科・算数科を中心に、「ともに学びあうため」の手立ての研修を推進。学校アンケートで検証。</p> <p>②授業でICTを活用する 教員はICT支援員による研修を受け、ICT活用指導力を向上する。児童は、スライド作り・ドキュメント作り・家庭学習にICTを取り入れるなどし、ICT活用能力を高める。学校アンケートで検証。</p> <p>③家庭学習の充実 家庭学習の手引きを配布し、啓発を行う。また、毎学期に家庭学習強化週間を設定する。家庭学習チェックシートで保護者のコメントから検証。</p> <p>④読書活動の充実 学校図書館、学級文庫の環境整備。図書委員によるイベント。巡回図書の活用。学校アンケートで検証。貸し出し冊数の検証。</p>	<p>①授業改善・基礎学力の向上 児童アンケート「授業の中で、自分の考え(意見や感想、思い)を話したり、書いたりする活動をするのは得意ですか。」や「授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいますか。」の項目において、2年生と5年生の肯定的な回答が他の学年に比べて低かった。2年生、5年生共に前年より学習内容が難しくなり、つまづきを感じる児童が増えることが考えられる。スムーズな学年移行、学年の引継ぎを丁寧に行い、授業改善に努める必要がある。 4年生と6年生はアンケートの結果、肯定的な回答が高い傾向にあった。4年生は、自由進度学習を取り入れ、主体的に学習ができる手立てを取り入れることができた。6年生は、教科担任制が2年目で、学習の流れ、環境に慣れてきたことが考えられる。高学年は2年間で成長を見守っていく視点を持つていくことが大切である。 教員は、「主体的に学びに向かう子」に迫るための手立てを考え、授業実践を進めることができた。国語科・算数科の授業公開を行い、その後事後検討会を開き、授業力を高めるために意見交換を行うことができた。</p> <p>②授業でICTを活用する 教員は「オクリンクプラス」など新しいツールの使い方などの研修を行った。研修に参加できない教員に向けては、職員会議等で選流したり、学年間で共有をしたりして様々な活用方法を周知した。児童は、長期休みや普段の授業の中でICTを活用した課題に取り組み、それぞれの学年に設けた到達目標に迫れるよう情報活用能力を身につけた。今後も、成長段階に合わせて、ICT教育を授業や家庭学習で取り入れていく。</p> <p>③家庭学習の充実 毎学期の家庭学習強化週間では、チェックシートを活用し啓発を行っているが、保護者のふり返りが書かれていない家庭があるなど、各家庭による差が大きい。チェックシートは学習時間、メディアコントロール、読書時間などの目標を児童自ら設定し、意識をもって取り組ませているが、児童の中でも意識の差が見られる。家庭学習の定着には、学校と保護者の連携が不可欠であるため、今後も連携を意識して取り組んでいく必要がある。</p> <p>④読書活動の充実 今年度も図書委員によるイベントを学期に1回ずつ行った。また、巡回図書を活用し、新しい本と出合う機会を設けてきた。児童アンケートでは、昨年度「読書が好きか」の項目では、約5割の児童が肯定的な回答をしたのに対して、今年度は約6割の児童が肯定的な回答をした。しかし、保護者アンケートの「お子さんは読書をする習慣があるか」の項目で、肯定的回答は43%だった。家庭への啓発や協力も必要である。学年が上がるほど貸出冊数が減少しているため、授業の隙間時間や図書館イベント時など、意図的に読書をする時間を設定していく必要がある。</p>	<p>① ・4年生、6年生で「主体的に学びに向かう子の育成」に対して成果が確認されています。その一方で、それらの間の学年の5年生では、成果が得られていない。引継ぎの点が課題の一つとして考えられているが、各学年の特徴についての分析と共有も必要かと思いましたが、成果と課題についての記載がありませんでした。</p> <p>・子どもはもちろん、保護者の安心にもつながることだと思います。</p> <p>② ・職員間で情報、成果が共有され全体的なICTの活用の推進に繋がっていると思いました。一方、「学校アンケートにて検証」とありますが、検証結果があれば、それを基にした今後の改善が考えられると思います。 ・家庭も含めたICT活用のメリット、デメリット(危険性など)についての共有も課題の一つかと思えます。 ・授業参観をさせていただき、先生方の研修の成果を感じさせていただきました。</p> <p>③ ・家庭学習チェックシートがどのようなものか見てみたい。 ・家庭学習において保護者の意識の差による子どもへの影響が出ないようより一層の取り組みを願います。</p> <p>④図書館まつり等のイベントは子どもたちにとっても人気があり、楽しそうに図書室へ来ている。普段からも来てもらえる工夫を考えたい。(ボランティア)</p> <p>③④どちらも課題の改善に家庭(保護者)との連携・協力の必要性が挙げられています。PTAとの協業などについても検討があればと思います。</p>	<p>① 児童アンケートにより、各学年の児童を分析し、強みと弱みの把握に努め、学年にあった授業を展開していく。また、「ともに学びあうため」の手立て(ペア・グループ学習)については、来年度も引き続き実践していく。</p> <p>② ICTを活用した授業は、わかりやすいと答える児童が全体の8割以上である。授業の中で効果的に活用できるように、教員の研修も引き続き行っていく。</p> <p>③ 児童にめあてを考えさせるところから丁寧に指導を行っていく必要がある。また、各家庭の意識の差を少しでもなくしていくために、保護者のふり返りを学年通信に記載するなどし啓発していく。</p> <p>④ 図書館まつりなど、学校のできる部分は続けていく。図書ボランティアとも協力して子どもの読書について検討していく。</p>
	長期欠席対策	<p>①全欠児童については、登校刺激を与えるのではなく、無理せず、放課後(1週間に1回程度)本人や保護者が来校し担任とつながる。</p> <p>②登校渋りが見られたり、遅刻・欠席が多い児童を把握するとともに、その理由を探り、早期に手立てを打つ。</p> <p>③30日以上欠席児童数を減らす。不登校傾向にある児童については、生徒指導部の不登校担当とコーディネーターが連携して対応に当たる。</p>	<p>①配布物の受け渡しを介して、友だち、担任、学校とのつながりをもち続けられた。</p> <p>②週1回の特別支援教育コーディネーター会議(管理職、コーディネーター、教育支援課、SC)や、月1回の職員会議でこまめに情報共有を行うことで、学校全体として不登校傾向児童を見守ることができた。また、学期初め等に子どもたちへの支援の在り方や、学級づくりの大切さを伝えることにより、未然防止につながってきている。SLSによる家庭訪問や、登校後支援のおかげで児童が安心して学校生活を送ることができた。学校での困り感を減らすため、通級指導教室につなげることで登校ができた児童もいた。SSWから家庭に働きかけてもらうことで、児童の登校の安心につながった。</p> <p>③2学期末現在、昨年度比で長期欠席児童数が2名減少した。担任が休みはじめに迅速な対応(電話・家庭訪問・本人との話)をしているが、家庭の事情や本人の気持ち、体調不良、保護者の考え方など様々な要因があり、学校としてできる手立てが難しい場合がある。</p>	<p>・職員・関係者・家庭との連携によって、未然防止や長期欠席児童の減少に繋がっている。学校に対する価値観の多様化が進む中で、対応に限界があることは仕方がない面もあり、教員への負担や働き方への配慮も必要かと思えます。 ・他校の事例で、上記にあるような「ともに学びあう」の実践、児童における理解の推進に伴って、登校渋りの児童が登校し易くなり、不登校の減少に繋がっているとの報告がありました。「ともに学びあう」ことについての理解は学力向上だけでなく、長期欠席対策の改善においても効果があるのではと思いました。</p> <p>① ・友だち、担任、学校とのつながりを維持する努力がされている。これは最も大切なことではないか。保護者についても関係機関と連携して不安を取り除く等の取り組みをしても良いと思います。 ・長期欠席の児童と誰かがつながりを維持続けられたことは素晴らしいことです。 ・欠席の理由はいろいろですが、最終的には学校以外にも逃げ場(安心できる場)があって良いことを子どもにも感じさせてほしいです。</p>
評価項目	本年度の活動(具体的な手立て)と指標	成果と課題	学校関係者評価	今後の改善点

評価項目	本年度の活動(具体的な手立て)と指標	成果と課題	学校関係者評価	今後の改善点
地域連携	<p>①学校ボランティア活動の活性化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア担当、地域コーディネーターが窓口となり、地域学習や出前講座などに学校ボランティアを活用する。 ・学力向上、長期欠席児童の縮小などの面から、新たなボランティアの募集と活用を図る。 ・学校、家庭、地域と連携した見守りで、児童の交通事故ゼロを目指す。 <p>②情報提供の充実を図る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校ホームページ、学校だよりの地域配布による情報提供を主とし、学校だよりに学校HPのQRコードを掲載することで、HP閲覧の機会を増やす。月間1部以上の発行を目指す。 ・学校についてより良く知っていただくため学校運営協議会委員の学校訪問、参観の機会を大切にす。 <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	<p>①学校ボランティア活動の活性化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図書ボランティアの活用が昨年度から継続して充実している。図書室、校内に季節毎の掲示や、イベントの準備など、環境整備も含め活用の効果が表れている。児童への貸し出し冊数は昨年度と大きく変わらないが、来室人数は増えている印象がある。 ・調理実習や校外学習など複数の学年で多面的にボランティアの協力を得られ、学習活動に活かすことができた。 ・安全ボランティアについて、人員の把握、一括した連絡手段などに改善の余地がある。 <p>②情報提供の充実を図る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校ホームページの閲覧率は昨年度に比べ5%程の増加がみられたが、学校生活の記事件数が少ない。個人情報の保護等の問題もあるが、校内で検討、精査が必要である。 ・学校だよりは月間1部以上に若干届いていない。HP同様、学校生活等の掲載により発行数増を目指す。 ・委員の方々の学校参観について、学校からの案内等で機会を増やす手立てが必要であった。改善していく。 	<p>①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図書ボランティアの方々の活動で図書室の環境改善が 進み、来室人数の増加に繋がっている。今後は家庭学習との連携も含め、貸出しの増加も期待したい。 安全ボランティア、地域での見守りについては、新型コロナの影響で地域との繋がりが薄くなってしまったので、時代に合った連絡手段も含めた関係の再構築が必要かと思います。 ・来年度の募集を積極的に行っていく予定です。(ボランティア) ・来室人数が増えているのは魅力ある図書室への図書ボランティアの活動が大きい。さらにハード面での努力を期待する。 ・安全安心意見交換会などで数年前までは横の連携ができていたが、今はできていない。 ・地域の情報共有として、以前行っていた「意見交換会」のような機会があれば地域の危険箇所や保護者の思いもわかるのではないかと思う。 <p>②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報提供は必要であるが、現場ではそこまで手が回らない現状が想像できる。学校、教員側の仕事を増やすだけでなく、整理と外部リソース(保護者、ボランティア、地域)の活用の検討も必要かと思います。 ・HP担当は得意でない大変そうです。 ・学校訪問は1回しか行けなかった。いつでも訪問できそうだが、何かきっかけがあれば良いと思う。 ・今年度は委員に対し名札を準備していただき授業参観へのお声がけをいただきながらなかなか機会を活かせなかった。しかし、民生委員に学校参観の機会をいただき、今の学校教育のあり方をする事ができた。 	<p>①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアの募集拡大をし、地域コーディネーターと協働して活用を広げる。安全ボランティアも学校で集約し、他のボランティアも含め、学校からの一括した連絡手段を構築する。 <p>②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校ホームページの定期的な掲載、更新を行う。各学年1回/月を心がける。 ・保護者に向けた授業参観日の案内を委員の方にも案内する等、委員の方々が学校へ足を運びやすいよう計画的に機会を設ける。
	非認知能力育成	<p>「自己肯定感」「達成感」を高める</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業の中で、達成感をもたせられるように授業作りから計画していく。 ・「自己肯定感」を高める研修会を実施する。校内アンケートで検証。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校アンケートより、「自分にはよいところがあるか」の質問に対して、約8割の児童が肯定的に回答している。また、「友だちと助け合いながら活動できる」と「学校やクラスのルールやきまりを理解し、守ることができる」の2つの項目において、約9割以上の児童ができてると回答している。授業の中で友だちと助け合いながら活動を行ったり、きまりを守れている児童を認め合ったりしてきたことで、児童の自信につながったと考えられる。 ・学校アンケートの「最後まで投げ出さずやり遂げる」の項目においては、1学期に比べ肯定的に回答する児童が減少した。児童が何事にも粘り強く自分のペースで継続できるよう、教師からの前向きな働きかけや啓発をしていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「自己肯定感」の向上につながったと考えられる授業作りについて、計画から実施、結果が教員間で共有され活かされているか、研修会の実施とあるが、どのような内容で、どの程度実施されたのか?「最後までやりとげる」についても、すべての学年で同じような傾向であったのか?傾向とは逆に向上した学年や取り組みがあれば、比較・共有し改善に繋がればと思います。 ・自己肯定感を高めることは、保護者への啓発も大切だと思います。 ・アンケートの結果は学校生活の中で「受けとめてもらった」「大切にもらった」経験を重ねることで得たものだと思う。このことは家庭、地域とも連携して取り組みたい。
特別支援教育	<p>①子ども・保護者への対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭訪問や個別懇談を行い、保護者と連携した支援を推進する。 ・特別な支援が必要な児童について、「すずっこファイル」を学期ごとに作成し、学年末には評価・考察を行う。(作成率100%) ・支援ファイル保持者について、必要に応じて月ごとに経過・変容を記録を書き留めていく。 <p>②学校の対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別支援教育コーディネーターを4人配置し、週1回情報共有や今後の方針を検討する会議を開催する。必要に応じて会議に助言者を招く。 ・特別支援教育コーディネーター等が校内を巡回し、支援の必要な児童の把握及び適切な支援方法の提案を行う。 ・推進委員を各学年から1名選出、校内推進委員会を各学期に2回開催する。 ・支援会議を随時開催し、情報共有や今後の方針の検討を行い、学年、通級指導教室、保健室、特別支援学級等での迅速な対応を促進する。 ・スクールライフサポーター、スクールカウンセラーを活用する。 ・特別支援教育に係る校内研修を実施する。(年1回以上) ・すくすくルーム、特別支援学級の授業参観を行う。(年1回以上) 	<p>①子ども保護者への対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭訪問や個別懇談を行うとともに、必要に応じて支援会議を開催することで、多くのケースで保護者と学校が連携して支援をすることができた。 ・学校と家庭で児童の様子が異なることなどから、短期間で学校と保護者が連携して支援を考えることが難しいケースもあり、「すずっこファイル」の作成率は100%にできなかった。 <p>②学校の対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ・月曜日2時間目の特Co会議(特別支援教育コーディネーター会議)を時間割に位置付けることで、定期的に児童の情報共有や支援の方向性の検討をすることができた。その結果、個人ではなく、組織として適切な支援内容や支援体制を判断することができた。また、必要に応じて外部から助言者を招くことでよりよい支援内容を考えることができた。 ・多くの職員が通級指導教室及び特別支援学級の授業を参観できるように約3週間の授業公開期間を設けた。 ・すずっこファイルの記録の仕方に関わる校内研修を設けるとともに、職員会議の中で特別支援教育に関わるミニ研修を行うことで職員の資質向上を図った。 ・特別支援推進委員会を学期に1回、年間3回開催した。特Co会議が上手く機能しているため、今年度は会議回数を減少できた。(昨年度は年間5回実施)特別支援推進委員会には各学年から1名参加しているため、より広い視点で支援体制の検討を行うことができた。また、記録の書式を変更したことで、通年で児童の変化が見やすくなった。 	<p>①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭訪問や個別懇談を通して保護者との連携に努力している。 ・困難な場面もあると思うが、「すずっこファイル」作成率100%を目指してほしい。 ・休み時間等に他クラスの児童との交流があると良いと思います。 <p>②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・設定された活動と指標を基に、状況に合わせてながら活動が展開され成果が得られていると思いました。 それらを踏まえて、現場に合わせた支援体制や活動、研修内容などが計画できると想像します。その中で、スクールカウンセラー、スクールライフサポーターなど外部リソースの効果的な活用計画もあると良いと思いました。 	<p>①</p> <ul style="list-style-type: none"> 引き続き家庭訪問や個別懇談で保護者との連携の推進を行うとともに「すずっこファイル」の必要性について理解を求め、年度末時点での「すずっこファイル」作成率100%を目指す。 <p>②</p> <ul style="list-style-type: none"> 特別支援教育コーディネーター会議において、児童の心理的背景の理解にスクールカウンセラー、家庭への支援や福祉的な支援にスクールソーシャルワーカー、不登校の児童支援にスクールライフサポーター等、適切な外部人材の活用を計画する。
評価項目	本年度の活動(具体的な手立て)と指標	成果と課題	学校関係者評価	今後の改善点